学園だより

太白山

（令和５年　２号）

宮城県さわらび学園

〒９８２－０２１５
仙台市太白区旗立２丁目４－１
ＴＥＬ：022-245-0333
ＦＡＸ：022-245-0515
https://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/
学園ホームページもご覧ください

「【力強い指導】から【粘り強い支援】」へ」

副園長　田中　佳二

学園に入所する子ども達には、たくさんの可能性と伸びしろがあります。しかし、これまでの生活の中で、自分の気持ちを言葉にしたり、気持ちを整理して相手に伝えることや、いろんなことを考えようにも何を考えて答えを出せばよいのかがわからないまま、ただただ自分の今を守ることに必死になってしまい過ぎて、結果、周りの人たちとうまくいかないことを繰り返してきた子ども達です。

「あなたにはこんな力があるよ」とか、「これからこんな努力をすれば〇〇さんに認めてもらえるよ」といった投げかけをいくらしても、「どうせ私なんて、どうせ僕なんて」「生まれて来なければよかった」と考えてしまう感覚から抜け出せずにいます。でも、そんな弱みを周りに見せることもなかなかできない「防衛本能」がいつも心の中でアイドリング中です。

でも、その一方で「もっと私や僕を見て」「もっとかまってほしい」といった人を求める気持ちのエンジンもいつもアイドリング中であり、思いどおりに大人が振り向いてくれないと、不機嫌になり、ルール違反、不適切発言につながり、それを注意されると防衛本能から自制がきかずに、してはいけない「行動エンジン」が稼働します。

そんな子ども達の今をどう支援し、自分の苦しさを素直に言葉にして吐露できたり、「相談する」という手段を肯定的に受け止めたり、「この大人だったら」と安心感を想起できる関係性を作っていくことが、私達学園職員が目指す姿です。真剣に、温かく、そして、何よりも「粘り強く」子ども達と向き合うことを続けていきたいと思います。

「粘り強さ」を続けていくためには、どこまでいっても「職員のチームワーク」と、職員ひとり一人が、「子どもの１０の失敗の中にひとつでもプラスを見つけるアンテナを持つこと」、そして「今自分にできることをやり続けることをやめない姿勢」であると思います。

これからも「粘り強い」支援を続けることに、職員がチーム一丸となって取り組んでいきたいと思います。

「優しい青葉寮」

青葉寮長　日下　善貴

自分自身も驚く形で４月から寮長をさせていただくことになりました。どんな寮にしていきたいか、寮の子どもたちにどうなってほしいか、突き詰めた結果、シンプルな言葉、「優しさ」をテーマとすることにしました。青葉寮は現在６名の児童と６名の職員とで生活しています。よく言えば皆、個性豊かで明るいです。悪く言うのは…やめておきます。日々トラブルや争いは絶えません。あとから振り返ると「しょうもないことでした」と児童本人が言うほど些細なことがきっかけです。トラブルが絶えないのは事実ですが、一人ひとりと話し、行動を見ていくと、根っこは優しい子だと、嘘でなく、本当に思っています。進んで手伝いをする、人の成長を認めてあげる、不穏な児童に寄り添い声掛けする、見守る、人の辛さを推し量り引いてくれる、寮の悪口を言われ仲間をかばう、人に影響されずにやるべきことをやる、退職する方にコツコツ折り鶴を折る、枚挙に暇がありません。

一人ひとり根っこの部分で優しさはあるのに、なぜ問題が起り、学園

にくることになったのか。誰しも、認められたい、評価されたい、との承認欲求があると思います。その掛け違えが多少なりともあったのかと感じています。失敗しながらもその中で良かった点を探しながら、時にぶつかりながらも、褒める、認める、ということを寮職員一同、心掛けています。

それぞれの歴史や個性、ペースがあるので、学園にいるうちに全てが良く変わる、変えてあげる、というおこがましい考えはありません。ただ子どもにはより可塑性があり、今までも驚くべき変化を目の当たりにしたことも事実です。自身の課題と向き合い、最後の最後は優しさを出せる人になってもらえるよう、子どもたちの優しさを信じ、自分自身も反省と精進を続けていく所存です。優しさとは認める、尊重することだとも思っています。自分の頑張りを認め、少しでも自分を褒められるような形で退園していってもらえたらと願っています。

「悔しさと喜びの地区野球大会」

スポーツ担当　伴　綾介

今年度から監督と子どもたちと練習を重ねてきました。野球が好きな子、嫌いな子など様々な子がいる中で新チームが始動しました。最初は全員でノックをやるのも精一杯でした。うまくいかなくて途中で抜ける子がいたり、その姿を見て不満気になる子がいたり、私も自分の指導力のなさにくじけそうになりました。そんな中でも、チームで大切にしていたのが、全員で元気に声を出し、プラスの声を掛け合うことです。苦しいときでも子どもたちは「ドンマイ」「がんばろう」といった声がけを続けてくれました。それがチーム全体に広がっていくのが、日々の練習で感じ取れました。一生懸命ボールを追いかけ、仲間につなぎ、一つのアウトをとる、まわりの子は「ナイスプレー」と元気に声を送る、そんな姿が増えていきました。四月は不安そうだった子どもたちの表情が別人のように引き締まっていました。大会は一回戦で負け、三位決定戦で勝ち、という結果でした。悔しさもありますが、両試合ともさわらびらしく戦い抜きました。悔し涙と喜びの笑顔、どちらも子どもたちと分かち合えたのが、何よりの宝です。

「児童と共に学ぶ野球」

スポーツ担当　野稲　忠憲

今年度より野球部のコーチとして児童へのスポーツ指導を行うこととなりました。野球については何一つ分からない状態から始めた為、児童に何かを教えることよりも、児童から教わることの多い日々です。児童と共に野球を学んでいく中で、自分の寮ではない子どもたちとの関わりが増えました。野球以外の場面でも、以前よりもはっきりとした声で学園の児童全員が挨拶をくれ話しかけてくれるようになり、嬉しい限りです。また、地区大会で勝利することを目標に掲げ野球部としてのチームワークを形成していくと同時に、寮の雰囲気も良くなっていきました。住んでいた環境も抱えている課題も様々な児童達が、それぞれ一つの同じ目標に向かっている児童達の頼もしい姿を近い場所から見ることが出来、コーチになって良かったと強く思いました。

夏の地区大会では奇しくも臨んだ結果は得られませんでしたが、これからも野球を通して児童達と共に学んでいきたいと思います。

「野球の地区野球大会を終えて」

野球部キャプテン

私は、キャプテンとして地区野球大会に出て思ったことが４つあります。

一つ目は、初戦で戦った北海道の大沼学園のキャプテンが礼儀良かったと思いました。大沼学園のキャプテンがしっかり周りを纏めることができていたので、まずそこが違う所だと思いました。

二つ目は、チーム内でしっかり声がけができるチームが強いと思いました。全国大会出場を決めた、大沼学園と福島学園は、しっかりチーム内で声がけをして全員で勝てたチームだと思います。野球は、チームスポーツだから誰かがぬけてしまったり、誰かが本気でやらなかったりすると勝てないと思います。だから、さわらび学園も三位決定戦で勝てたと思います。

三つ目は、チーム一丸になって戦うと楽しいと思いました。三位決定戦のとき、ピッチャーをしていました。最初に打たれた球がレフトの奥までいってしまったとき、みんなで追って、中継をつないで打ったランナーをアウトにできた時に楽しいと

思いました。その後もランナーを出してしまったけど周りが守ってくれて勝てたと思います。

四つ目は、今回の地区大会、みんなの良い所が目立ったと思います。チーム内の声がけや良いプレーをした人を褒めたりなどの試合中だけでなく、グラウンドの整備してくれた人や審判に感謝の気持ちを伝えたりしているのを見て良いチームになったと思いました。四月からキャプテンとしてチームを纏めて一番良いチームだと思いました。

今回の大会は、キャプテンとして地区大会に出て、本当に良いチームで出て楽しく、最後は、笑顔で帰って来られたので良かったです。まだ、ＦＡＳカップなどもあるのでそれまでしっかりとキャプテンとしてチームを纏めていきより良いチームになるように一生懸命頑張っていきたいです。

「野外活動について」

野外活動担当者　小川　有結

さわらび学園、夏の恒例である野外活動が国立花山青少年自然の家にて行われました。昨年度はコロナウイルスの影響で、日帰りの活動となりましたが、今年度は七月二十七日（木）、二十八日（金）と一泊二日の活動を行うことができました。

一日目は沢遊びと野外炊飯を実施しました。野外炊飯ではカレーライスを作りました。米を炊くために薪を割り、窯の中に火をつけ、火加減を調整しました。高温な外気の中、汗をかきながらおいしいカレーライスを完成させることができました。

二日目はメインイベントである沢活動です。活動中は、虫が多く、アブや蜂が飛び交う中、虫を避けながら冷たい水の中を思い思いに進み、沢を楽しんでいました。そして、最後に待ち構えていた一番大きな滝では、飛び込みに不安を抱える児童も、他児童からの応援を受け、勇気を出して飛び込むことができました。飛び込みを終えた児童達の表情はとても清々しく、自身に満ちた姿でした。

沢活動や野外炊飯を通して、児童たちは自然の偉大さや美しさ、仲間と協力することの大切さを学ぶことができたと感じています。

最後になりましたが、活動期間の二日間事故やケガ、大きなトラブルなく、無事に活動を終えることができました。今回の活動にご協力をいただきました関係者各位の皆様、児童の健全な成長を祈り、ご尽力いただいている関係者各位の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

「野外活動」

男子寮代表児童

二日間で、野外活動を体験しました。一日目は、沢遊びをしました。冷たい水で、みんなと遊んだり、水をかけあったりしました。沢②まで、歩くのは、とてもつかれたけれどその分、存分に沢活動を楽しめました。夜は、野外炊飯で、カレーを作りました。とてもおいしかったです。次の日は、沢⑩まで二から三キロメートルある道のりを、みんなで歩きました。その分、いっぱい遊びました。五メートルのところから、みんなでジャンプして、水の中に飛び込みました。自分は、ジャンプするのに、二十一分かかりました。最初は怖かったけれど、勇気が必要だということが分かり、おもいっきりとべました。あらためてとんでみると楽しかったです。また来年もいってみたいです。

「花山での思い出」

女子寮代表児童

七月二十八日に花山青少年自然の家に行って来ました。一日目は沢遊びをしました。沢②で活動をしました。まず、山を三十分くらい歩いて、沢に行きました。そこで一時間くらい沢で遊びました。アブかハチがすごかったです。夜には、野外炊飯をしました。カレー作りをしました。火の番から、料理まで一人でやりました。一人でできたので、すごく達成感がすごくありました。夜の自由時間に、つどいの広場で星を見て、アイスを食べました。普段より、アイスが美味しく感じました。寝る時は、二段ベットの上でねました。二日目の朝は早起きでした。七時十五分から、朝の集いがありました。朝のつどいで、私が代表して団体紹介をしました。練習をしていた時にくらべたら、少し早くしゃべってしまいました。でも、最後までしっかり発表できたのでよかったです。二日目の最後の活動で沢上りをしました。最後に、飛びこみスポットで小さいところから飛びこみました。楽しかったです。私が前回の野外活動とは

ちがって、成長したところが２つあります。一つ目は、ネガティブ発言が少しへった事です。去年はネガティブ発言が多く、先輩に注意されたことがありました。ですが今年はへらせたのでよかったです。二つ目は、今年一回もう回路を使いませんでした。去年はここは無理だと思って、すぐう回路にまわってしまいました。でも、今年は使わずに行けたのでよかったです。この二つから学んだのは、あきらめなければ、協力すれば、そのかべは、のりこえられるということを、学びました。

「ストレスへの対処法」

学園心理士　佐藤　啓直

学園に赴任して約半年が過ぎました。子どもたちや職員に教わりながら学園の一員に加えていただきました。

学園の子どもたちは、それぞれ課題がありますが、ストレスへの適切な対処は皆に共通したテーマです。学園には、過去に暴力にさらされたり、裏切られたりと様々な被害経験のある子がいます。このため、自信がなく、刺激に過敏に反応し、些細なきっかけで興奮したり、できることを拒否したりします。そんな失敗経験を重ね、さらに自信を失う子も少なくありません。

私は時々ストレスをコップと水に例えて説明します。各自のコップ（心の器）から、水（ストレス）が溢れると、暴力や自傷などで感情を発散させる「行動化」、頭痛・腹痛などの「身体化」が生じます。対処法は、①水自体を止める、②コップにふたをする、③コップから排水して余裕を作る、④コップの容積を増やすの組み合わせです。①は、ストレス源自体をなくすことで、他者や環境に関わるため、本人ではなく周囲が環境調整をすることになります。②は、自分のストレスを自覚し、対策をすることです。過去の被害体験が影響している場合もあり、それを安心できる大人と共有できることが理想です。③は、自分の気持ちを「言語化」し、クールダウンするなど対処法を実行することです。④は、学園の日課に努力して取り組み、力や耐性をつけることです。子どもたちは日々職員と共にストレスに向き合いながら、成長しています。心理士として、サポートしていきたいと思います。

夏祭り子ども会を開催しました。

八月四日（金）、学園内で子ども会として夏祭りを行いました。広瀬寮は射的、青葉寮はボッチャ、すみれ寮は段ボールフリスビーのブースを設け、児童たちが職員と共に楽しむ様子が見られました。また、夏の風物詩でもあるスイカ割りやかき氷等の季節を五感で感じるイベントも行い、児童たちの笑顔が散見されました。夜には寮ごとにＢＢＱを行ったり、花火をしたりして一日を終えました。今年の夏は猛暑日が続きましたが、その暑さを吹き飛ばすくらいの笑顔や笑い声が学園を包んだ一日になったと思います。

今後の行事予定（抜粋）

十月二十七日　学園祭
十一月十日　漢字検定受験
十二月十九日　クリスマス会
十二月二十八日　餅つき子ども会

編集後記

九月の行事として、中旬に山形県、宮城県、福島県の児童自立支援施設の交流を主としたスポーツ大会（ＦＡＳカップ）を行いました。児童たちは、地区野球大会の悔しさを糧に今大会は優勝することを目標として日々野球練習に取り組んできました。結果は練習の成果もあり、優勝しました。児童たちの嬉しそうな表情が見られてほっとしています。スポーツを通して成功体験や失敗体験を積みながら、成長していく姿が楽しみです。